



第 46 号

2014.10.31
発行

編集発行 特定非営利活動法人 虹の会
TEL 04 (7179) 3133
FAX 04 (7179) 3130
〒270-1114 我孫子市新木野 3-32-15
郵便振替口座 00180-0-592018

サテライト事業と

地域のつどいの家について

～その後のご報告～

理事長 高井 睦美

前号 45 号で表記の件についてお知らせし、今号では具体的なお報告を予定していたのですが、残念ながら、サテライト事業については中止せざるを得なくなってしまいました。オープンを楽しみにされていた方々のご期待に添える事ができなくなってしまったことをお詫び申し上げます。誠に申し訳ありません。

サテライト事業は介護保険制度に則った事業のため、建物にも指定基準が定められています。ところが、指定に必要な建築確認済証の不備が判明し、新たに確認済証を取るためには多大な費用が掛かることがわかりました。これを受けて、家主の北村さんとも次善策の協議を重ねてきましたが、このたび、当会としては事業申請を断念せざるを得ないとの結論に至りました。

一方、つどいの家に関しては、北村さん宅の店舗部分にて、予定通り開設できる見通しが立ちました。市のきらめきデイサービス事業の助成金を受けて家賃と運営費を賄います。家賃に関しては、当初計画より大幅に減額せざるを得なくなりましたが、北村さんのご厚意によりご了承いただけました。この場を借りて御礼申し上げます。

今後、当会としましては、つどいの家の運営に協力してゆくとともに、つどいの家において介護相談会を開くなど、何らかの形でお役にたてれば

と考えております。

なお、建物の改修費用および市の助成金が出るまでの家賃は、この 10 年、地域で事業を展開してきた感謝をこめて、当会で負担することを先般の理事会において決定いたしましたので、ここに報告させていただきます。

新木野高齢者見守りネットワーク運営委員会の尽力もあって、先月、つどいの家開設委員会が結成されました。今月の会議では、誰でもふらりと立ち寄れる家という意味を込めて「ふらりえ新木野」という名称も決定しました。今後、運営細目やボランティアさんの募集など、具体的なご案内もできることと思います。

建物の整備についても、11 月より店舗部分の改修工事が始まる予定で、来年 2 月のオープンを目指して準備が進められています。虹の会の会員の皆様におかれましても、折に触れてお力をお借りする場面があるかと思いますが、その際はどうぞよろしく願いいたします。



虹の会 公開講座について

介護支援専門員 田中 さな江

虹の会公開講座は夏期講座が今年の 6 月から 7 月にかけて「あらか野自治会館しらさぎ」において全 4 回開催されました。毎回 10 名前後の受講者の方が参加され、グループ討議をしながら老いへの不安について、その解決の糸口を探ってみました。

まず、加齢によるマイナス面、プラス面を皆さんで考え、今後どんなことが心配なのか意見を共有しました。そのなかで認知症になる事への恐れ

や、認知症について知りたいとの意見が多く上がりました。そこで、DVD 視聴を通して認知症の人は実際に何を感じているのかを共に考えました。

また、将来、介護が必要にならない為にどんな事ができるのか、万が一介護が必要になった時に、どんな介護サービスが受けられるのか、介護保険制度の学習も行いました。

この講座で皆さんと共に学んで得られたのは、サクセスフル・エイジング（よい歳のとり方）を目指すということです。これは、単に長生きをするのを目標とするのではなく、いつまでも自分の考えで好きなところに行ける、好きな食べ物を食べ、身体的にも精神的にも健康を保つことを目標とする歳のとり方です。そのためには、自分の考えを持つ、人の役に立つ、鬱鬱にならず前向きに考える、適度に身体を動かし疲れすぎない、といったことに留意するのが大切です。サクセスフル・エイジングを築き上げるためにも、今後、団塊の世代の社会参加が必要であるとの気持ちを強くしました。今回、講座を通して得るものも多く、私自身、とても励みになりました。

～公開講座を終えて～

新木団地 富山素美

「『介護難民』にならないために知恵を出し合いましょう。」という、講師の田中さな江さんのお話で始まったこの講座ですが、自分の現在もっている老いへの不安や将来どんな老後を過すか、自らのことを考え、他の参加者の話を聞いて学ぶ、とてもためになる時間を過ごすことができました。

特に 70 代、80 代、90 代…と人生の先輩の方々、伴侶の方を介護されていたり、見送ったりされた方もいらして、やがて来るだろうその時に、私もがんばれるかまだわかりませんが、こうやって話ができる場所があり、解かりあえる方々が近くにいらっやって、とても心強いと思いました。

ありがとうございました。

歳をとって嫌な点は？

- 「視力、聴力の低下」「なんでも面倒になる」
- 「体の衰えを感じる」「病院の先生とばかり仲良くなり、困る」
- 「サンデー毎日の日々と、曜日など判らない時がある」
- 「一日 25 時間探し物をしている」
- 「こんなはずではなかったと思うことが多くなり、自分の役割がだんだん少なくなる」

歳をとってよかった点は？

- 「死を明るく語れるようになった」「他人にやさしくなれる」
- 「年長者の言う事に納得できることが多くなった」
- 「のんびり気ままな生活が楽しめるようになった」「家族や知人の配慮が嬉しい」

講座を受講しての感想は？

- 「認知症にならないために、読む、書く、食べることをしたい」
- 「認知症も怖くならない世の中になるといい」
- 「目標は義母を看取ること。在宅生活で支えたい」
- 「健康も大事だが、人の役にも立ちたい」
- 「笑うことが大切。母が教えてくれた。」
- 「死ぬことは当たり前の話なのでくよくよしない。ストレスにならないように生きたい」
- 「今回の講座で皆と知り合いになれたことが嬉しい」

参加者語録



9月3日～10日
白井の観光果樹園へ梨狩りをしに行きました。「どれを採ろうかしら…」



8月18日
浴衣を着て納涼会
さすが！皆さん決まっています。



7月7日
双葉保育園の七夕の会に参加して、ちびっこと一緒に飾り付けをしました。



9月29日
昼食前の様子です。利用者さんの嚥下の力が衰えないように、毎日DVDに合わせて「お口元気体操」をしています。



7月26日
自治会のお祭りでお神輿が来ました。
虹の家を代表して振る舞い酒を飲む最年長のMさん！！

虹の家 Diary

スプリンクラー工事について

事務職員 牧野 仁

消防法施行令が改正され、2015年4月1日からは小規模な介護施設であっても、例外なくスプリンクラーおよび自動火災報知機等の消防用設備の設置が義務づけられることになりました。

要介護者、とりわけ認知症の利用者は体力はもとより身を守るための判断力自体が低下しているため、万一の出火時には自ら避難行動をとることが期待できず、ほぼ全面的に職員の誘導に頼ることになります。また、車椅子で移動する利用者は、いくら避難訓練を積んだにせよ、特に夜間において速やかに避難誘導することは困難です。

これらを踏まえれば、介護施設におけるスプリンクラーの設置が消火の初期対応手段として有効なのは、間違いのないところです。

虹の家では、既に自動火災報知設備は設置済みですが、このような状況を踏まえ、宿泊棟および通い棟を対象に、スプリンクラー設備を新設することとしました。費用負担は大変ですが、利用者や職員の生命に関わる大事との認識の下、行政の支援も得て11月から約1ヶ月の工期で施行する予定です。工事期間中は、近隣の皆様には何かとご迷惑をおかけするかもしれませんが、なにとぞご理解とご協力をお願いいたします。

新入職員紹介

荻窪絢子

満州生まれの九州育ち。かつて、新木野ストアに勤めていたため、新木野では顔が広い方だと思います。今は犬との二人(?)暮らしです。自宅に閉じこもってばかりいるのも良くないと考えて、虹の家の調理員として働かせていただくことになりました。趣味は料理とカラオケです。ただ、料理のレパートリーが多くないのでインターネットも活用して日々研鑽を積んでいきたいと思っています。大人数の調理は大変ですが、徐々に慣れてきました。今後ともどうぞ宜しくお願いします。

飯塚美香

7月から経理事務員として、虹の家にお世話になっています。生まれは、北海道釧路市。現天皇陛下御成婚の日に生まれました。趣味は、韓国ドラマやK-POPを聴く事とピアノをたまに弾いています。自宅は虹の家から徒歩5分の処で、主人と2人の息子と4人家族です。虹の家は、とてもアットホームで職員の皆さんも温かく、その上、大好きなパソコンを活かせるお仕事ができて、とても幸せに思っています。明るいだけ取り柄ですが、どうぞ宜しくお願い致します。

編集後記

▲今号より、レイアウトを一新し、ボリュームもアップしてお届けいたしました虹の会ニュース。いかがでしたか? 「地域の皆様が、歳を重ねても、また、万が一、障害を抱えても、安心して暮らし続けられるよう支援する」という虹の会の理念を、多くの方々に知っていただけるよう、更に努力してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い致します。なお、タイトルの題字は、虹の家利用者のHさんに書いていただきました。

▲一面でもお知らせいたしました虹の会の公開講座は、現在秋季講座が開講中です。残り2回ですが、11月11日(火)と11月25日(火)の10時から、あらかし野自治会館しらさぎにて開催します。興味をお持ちになられた方は、途中からでも結構ですので、ぜひ足をお運びください。

▲虹の会ニュース第1号(H15年8月発行)から第44号(H26年4月発行)までの編集に、ボランティアで関わってくださったのが佐々木美津子さんです。これまで、十余年にわたって年4回のペースで発行を続けてこられたのも、縁の下の力持ちとして虹の会の広報活動を支えてくださった佐々木さんのお力添えあってのことです。本当にありがとうございました。

虹の家歌壇

バッグには多くの隠れ家ある如く
レジにて採す財布のゆくえ
最近利用が始まったYさんが、以前、
賞をもらった短歌を披露してください
ました。